

事業所名 グループホーム いやしの家 備前
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年 3月30日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 デイサービスセンター管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士
B:現職 理学療法士
資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師(3年)

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な人権の保護、生き甲斐のある生活、家庭的な生活を目指している。 ・何より、老後を心穏やかに過ごしていただきたい。その為には、周りの人に気を使わず、我が家のようにその方らしく生活してほしいと考えている。明るく楽しいホーム、職員が「自分の親もここに住ませたい」と思えるような温かい家庭的な場所を目指している。 ・最期に「ここに居て良かった」と思ってもらえるような場所となり、入居者の身体機能を維持して生き生きとした生活を保持し、笑いの絶えない日々を送っていただけるよう努めている。 ・ホームの近隣だけではなく、入居者の近所の人や親類などが気軽に遊びに来られる「地域の井戸端」的な存在になり、地域との交わりによって入居者の生活の幅を広げ、人の輪を広げていけるように取り組んでいる。 ・食事は入居者にとっても大きな楽しみであり、栄養価もさることながら食材にも気を配っている。様々な希望にも応え、メリハリをつけるようにしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員への心構えとして、介護のプロとしてどんな時にも笑顔で接することができるように指導している。入居者が笑顔で過ごせるためには、職員がいつでも笑顔で接することが必要だと考えている。 ・玄関がーチには椅子が並べられ、好きな時に出て外気浴をしたりおしゃべりをしたり、散歩や畑への行き帰りに一休みするなど、ちょっとした憩いの場所となっている。居間にある畳のコーナーの窓が全面ガラス張りのため、キッチンや居間、畳のコーナーからも玄関がーチや庭が見渡せるようになっており、とても開放的で職員の間も行き届き、安心である。 ・法人代表者の家族や職員が一体となり、入居者を支援しながら作っている畑は、入居者にとって気持ちの支えでもあり、まさに癒しの場所である。毎日、畑の作物を眺め、季節感に触れることで食欲が増し、健康維持の源となっている感がある。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

調評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・赤穂線伊部駅から徒歩5分の所にホームはあり、周辺には釜焼きの煙突が立ち、歴史ある備前焼の町伊部が親近感を持って訪問者を迎えてくれる。交通の利便性も良く、近くには大型スーパーや保育園、小学校や警察署などがある。
- ・鉄骨平屋作りの和風建築で、庭がとても広く、その一角には菜園があり、花壇ではチューリップの芽が春の訪れを間近に感じさせる。玄関脇にはヘデラ(ツタ類)が植え込まれ、心が癒される環境である。
- ・職員を含め、入居者の大半の方が地元の出身でもあり、コミュニティーケアという地域密着型の理想に近い形のホームである。近所の方が気軽にお茶を飲み立ち寄れるなど、開放的で心やすい庶民的な雰囲気がある。
- ・管理者は職員の定着やケアの質を高めるために努力しており、徐々に成果が現れてきている。職員の意識を高め、より専門性の高いケアを構築すべく情熱を傾けている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・地域との関係には、開設以来努力を重ねて来られている。より地域に根ざした開かれたホームを目指し、運営推進会議への取り組みを積極的に進めていただきたい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄バターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳や郵便物を取りに行く人、野菜の皮むきなど食事の下ごしらえをする人、掃除をしたり洗濯物をたたむ人など、入居者それぞれがしたいこと・できることから役割を持っている。些細なことでも誰かの役に立っていると満足感や達成感を持ってもらうことは、生き生きと過ごすことにも繋がっている。 ・入居者は、昼間はほとんど居室に帰らず皆さんと一緒に行動されることが多いが、居室で過ごすプライベートな時間は大切に、できるだけ干渉しないようにしている。 ・農業をされていた方が多いこともあり、ホームの庭にある畑は入居者の大きな楽しみである。法人代表者の家族や職員が一体となって入居者との畑作りを支援している。 ・面会時にはそれぞれの入居者のファイルに名前を書いてもらい、プライバシーの保護に努めている。書類などは必ずシュレッダーにかけて処分している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の質の確保には、職員からの紹介や知人の推薦など、信頼できる人を雇用するようにしている。管理者は職員それぞれの良さが毎日のケアに反響されるように働きかけしており、徐々に成果を挙げてきている。 ・インシデントレポートで事故やヒヤリハットの報告をして話し合いをし、再発防止に向けての検討や周知・徹底ができるよう取り組んでいる。 ・地域の中にすっかり溶け込んでいる感のあるホームではあるが、今後は町内会の方・民生委員・地域包括支援センター等々への働きかけを行い、しっかりと運営推進会議づくりに取り組んでいくとのこと。 ・毎年、家族へ手紙や写真などを送っている。今後は、ホームでの暮らしぶりや行事で出掛けたことなどを「便り」として年に1~2回からでも発行を始めたいと考えている。 ・「いやしの家」として、岡山市と備前市にグループホームを展開しており、お互いのホームの情報交換や勉強会を持ち、研鑽を重ねながらサービスの質の向上に努めている。 		